

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ばしょうぼけつとぱーく 芭蕉ポケットパーク
4-1	

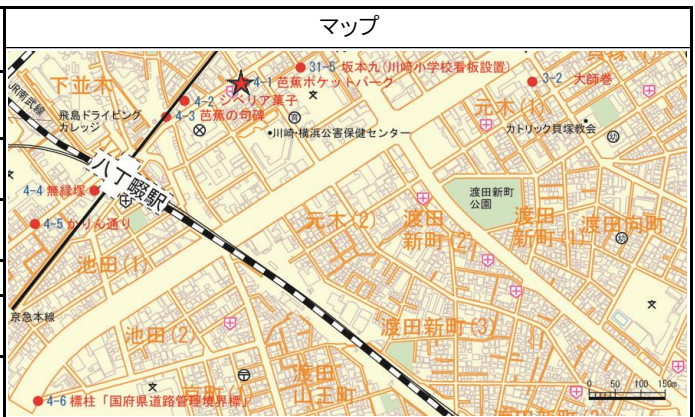
エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁畷	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区日進町24-15
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 川崎市住宅供給公社 事業部管理営業課
TEL	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-244-7577 (川崎市住宅供給公社)
FAX	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-244-7509 (川崎市住宅供給公社)
E-mail	
URL	http://www.kawasaki-jk.or.jp/index.php (川崎市住宅供給公社HP)
交通	JR川崎駅より徒歩12分またはJR・京急八丁畷駅より徒歩3分



基礎情報

- 平成17年(2005)3月、日進町の旧川崎宿の外れにあたる場所に松尾芭蕉をしのぶポケットパークが完成した。
- 付近は川崎宿の「京口」(京都側の入り口)と呼ばれ、元禄7年(1694)に芭蕉が弟子達と別れを惜しみ句を詠み交わした所とされている。その年の秋に芭蕉は大阪で帰らぬ人となった。弟子たちにとっては本当に最後の別れとなった場所。石盤にはこの時の7人の弟子たちの句が彫られている。

由来・エピソード

- 川崎市住宅供給公社により建てられた高齢者向け優良賃貸住宅「ビバース日進町」の旧東海道に面した1階部分、約30㎡の敷地に芭蕉ポケットパークはつくられた。弟子達との別れの時に芭蕉が詠んだ『麦の穂を たよりにつかむ 別れかな』が刻まれる「芭蕉の句碑」のある八丁畷駅前もすぐ近く。
- 芭蕉にとって弟子達は江戸での生活の支援者であり、連句の共同制作者でもある大切な存在だった。これまであまり脚光を浴びることのなかった芭蕉の門弟にスポットを当てた施設である。ベンチ前の石盤には7人の門弟たちの句が刻まれ、また裏側が自販機コーナーになっている半円形の柱には22人の門弟たちの句が紹介されている。
- 芭蕉の句からイメージされる麦畑に見立てた植栽や樹木の選定など当時に想いを馳せるための様々な演出が施されている。「東海道川崎宿2023」の会合において設計者と市民がデザインの詳細について意見を交換し、石盤に刻む句の文字については市民が要望した毛筆体が採用されるなど市民参加によって実現した施設である。

補足・その他

- 「ビバース日進町」は建物内に高齢者向け優良賃貸住宅(5~11階)と高齢者療養を主とする馬嶋病院と在宅ケアセンター(1~4階)が同居した施設。住居部総戸数は55戸(1LDKタイプ他)。小川町から移転した馬嶋病院の療養病床85床が備わっている。ポケットパークの維持管理は川崎市住宅供給公社が担っている。
- すぐそばにある平成16年(2004)年にリニューアルされた日進町町内会館は「麦の郷」と名づけられ、会館の前には江戸時代の川崎宿の姿が描かれた東海道分間延絵図の銅版などが設置されている。銅版は昭和40年代に日進町町内会婦人会が市教育委員会の協力を得て制作されたもので、会館の建替えの際に倉庫内から発見されたという。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (4-3)芭蕉の句碑